

6/12 Hirado City Photo News
平戸の将来を考えて



平戸文化センターで第11回平戸市「少年の主張」大会が開催されました。

市内の小中学校の代表26人が自分の思いを堂々と発表し、将来の夢や、日々の生活のなかで感じたことを自分のことばで伝えてくれました。小学生の部では、「未来の平戸市」をテーマに身近なことから平戸市全体のことまで、これからのまちづくりに参考になるような素晴らしい発表ばかりでした。

【最優秀賞】「小学生の部」北村由依菜さん(平戸小6年)「中学生の部」石田悠華さん(中野中3年)

【特別賞】橋村優花さん(南部中3年)

6/11 Hirado City Photo News
カヤックでの水難事故を防ごう



千里ヶ浜海水浴場で「カヤックアングラー(釣り師)のための水難事故防止講習会」が開催されました。

昨年から行われているこの講習会は、夏のレジャーシーズンを前に、カヤックで釣りをしている際の水難事故を未然に防止する目的で行われ、クラス別に別れて、シーカヤックの専門家による陸上や会場での講習が行われました。その後、試乗会も行われ、平戸カヤックスがコーディネートし開発した「ヒラドシェイカー」などに試乗し、参加者した約40人の皆さんは、思い思いに楽しんでいました。

6/1 Hirado City Photo News
日本の文化を初体験



5月31日から6月2日まで、国際親善交流で日本を訪れている米国コロラド州デンバー市ベアークリークの高校生29人を根獅子集落機能再編協議会(濱崎保久代表)が受け入れました。

この日は、午前中は重要文化的景観である根獅子の棚田での田植え体験や、かのう交流館広場に移り、かまどでのご飯炊きやにぎり飯づくり、もちつき体験を行いました。午後からは、根獅子の浜でカヌーや水泳体験を行うなど、はじめて日本の文化を体験し、悪戦苦闘しながらも目を輝かせながら楽しんでいました。

5/29 Hirado City Photo News
偉人をしのんで



「第22回按針忌」が執り行われました。当日はあいにくの雨で会場を未来創造館に移し開催されました。三浦按針ことウィリアム・アダムス(英国人)の命日を按針忌とし、平成7年から毎年執り行なっています。

按針は、徳川家康の外交顧問として、砲術、天文学、造船術、航海術などを日本に伝えました。また、日本初のオランダ商館やイギリス商館の平戸設置に尽力し、海外との交易の礎を築いたことは、彼の多大な功績であり、その功績をたたえ、関係者約70人が参列し献花を行いました。

6/20 Hirado City Photo News
豆力士が白熱の取組



生月町相撲道場(生月町中央公民館横)で「住吉・白山神社奉納大相撲」(壱部浦青年会主催)が開催されました。

この奉納相撲は、100年以上の伝統があり、商売繁盛・大漁満足・五穀豊穰・海上安全・無病息災および祈願成就を目的として毎年行われています。幼稚園・保育園児の花相撲、幼児土俵入りのほか、小中学生までの花相撲、一般の力士による職場対抗戦や地区対抗戦が行われました。大勢の見物人で埋め尽くされた会場では、白熱した取組に皆さん大きな声援を送っていました。

6/13 Hirado City Photo News
平戸産のお酒を外国人にも



福田酒造(株)で作られた新酒「福田純米吟醸」が、IWC(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)2016SAKE部門の「純米吟醸酒」の区分で、総出品数1,282点の中からブロンズ賞を受賞しました。一昨年と昨年は「福鶴長崎美人」もブロンズ賞を受賞しており、今回で3回目の受賞となります。また「福鶴長崎美人」は、平成27酒造年度全国新酒鑑評会で、出品数854点の中から、特に優秀と認められる入賞酒となりました。「今後は、オール平戸産の材料を使って、新酒も開発し、地元にも貢献していきたい」と話していました。

6/3 Hirado City Photo News
北農生がダンチクの有効活用



紺や亭で「ダンチク牛」を使ったランチレストランが、2日間限定でオープンしました。

県立北松農業高校の動物科学部の生徒たちが、出産からダンチクの刈り取り、発酵させた餌づくり、肥育まで一貫して行い、出荷された「ダンチク牛」を紺や亭のオーナーシェフが、部位ごとに美味しく仕上げた絶品メニューを完成させました。当日は、生徒たちが、研究成果の発表を兼ねて、準備から後片づけまで行いました。

お客さんは「あっさりしているけど旨味が凝縮されていておいしいね」と笑顔で話しました。

6/2 Hirado City Photo News
いっぱい卵がつかますように



大佐志町の古田漁港で、南部中学校1年生の生徒26人が参加し「イカ柴体験」(県北地区漁業士会主催)が開催されました。

まず、指導漁業士の山川富士夫さんからイカ柴の大切さなどについて説明を受け、実際に自分たちでロープと柴(クロキ)の束を使ってイカ柴を作り、沖合いで海底に沈めるまでの一連の作業を体験しました。また、最後には、山川漁業士が事前に仕掛けていた柴の枝にたくさんのイカの卵が産み付けられているのを見て、生徒たちは驚きながらも興味津々の様子でした。